

○保育士A専門試験問題例

問1 保育所保育指針に関する次の文章について、( 1 )～( 10 )に入る語句を下記の語句群から選び、記号で答えなさい。ただし、(1)と(2)の解答については、順不同とする。

- A 保育中に体調不良や傷害が発生した場合には、その子どもの状態等に応じて、保護者に連絡するとともに、適宜、( 1 )や( 2 )等と相談し、適切な処置を行うこと。看護師等が配置されている場合には、その専門性を生かした対応を図ること。
- B 感染症やその他の疾病の発生予防に努め、その発生や疑いがある場合には、必要に応じて嘱託医、( 3 )、保健所等に連絡し、その指示に従うとともに、保護者や全職員に連絡し、( 4 )等について協力を求めること。また、感染症に関する保育所の対応方法等について、あらかじめ関係機関の協力を得ておくこと。看護師等が配置されている場合には、その専門性を生かした対応を図ること。
- C アレルギー疾患を有する子どもの保育については、保護者と連携し、( 5 )及び指示に基づき、適切な対応を行うこと。また、( 6 )に関して、関係機関と連携して、当該保育所の体制構築など、安全な環境の整備を行うこと。看護師や栄養士等が配置されている場合には、その専門性を生かした対応を図ること。
- D 子どもの疾病等の事態に備え、医務室等の環境を整え、( 7 )、材料等を適切な管理の下に常備し、全職員が対応できるようにしておくこと。
- E 保育所に入所する際には、( 8 )等を参考に、一人一人の子どもの予防接種歴や感染症の罹患歴を把握し、その後、新たに接種を受けた場合や感染症に罹患した場合には、保護者から保育所に報告してもらい、情報を共有することが大切である。
- F 救急蘇生を効果的に行うためには、子どもの急変を早期に発見することが重要であり、日頃の( 9 )の把握や保健管理のあり方が大きな意味をもつ。また、保育士等をはじめ全職員は、各種研修会等の機会を活用して、救急蘇生法や応急処置について熟知しておく必要がある。( 10 )が設置してある場合は、その操作について習熟しておく。

【語句群】

ア. 区役所	イ. 聞き取り票	ウ. 市町村	エ. 予防
オ. 嘱託医	カ. 発達状態	キ. 救急用の薬品	ク. 母子健康手帳
ケ. 保護者の依頼	コ. 自動体外式除細動器 (AED)	サ. 子どものかかりつけ医	
シ. 健康状態	ス. 火災報知器	セ. 医師の診断	ソ. 食物アレルギー

問2 次の表は、保育所保育指針第2章保育の内容「1 乳児保育に関わるねらい及び内容」の一部である。表中の（ A ）～（ D ）にあてはまる語句の正しい組み合わせを1～5の中から選び、番号で答えなさい。

【表】

視 点	ね ら い
健やかに伸び伸びと育つ	①身体感覚が育ち、（ A ）に心地よさを感じる。 ②伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。 ③食事、睡眠等の（ B ）の感覚が芽生える。
身近な人と気持ちが通じ合う	①安心できる関係の下で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。 ②体の動きや表情、発声等により、保育士等と気持ちを通わせようとする。 ③身近な人と親しみ、関わりを深め、（ C ）が芽生える。
身近なものと関わり感性が育つ	①身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ。 ②見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。 ③身体の諸感覚による（ D ）が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。

	A	B	C	D
1	身の回りの環境	生活のリズム	愛着関係	認識
2	身の回りの環境	生理的なリズム	愛情や信頼感	体験
3	快適な環境	生理的なリズム	愛情や信頼感	体験
4	快適な環境	生活のリズム	愛情や信頼感	認識
5	快適な環境	生理的なリズム	愛着関係	認識

問3 食物アレルギーに関する次の文章について、正しいものには「○」を、間違っているものには「×」を記入しなさい。

- A 食物アレルギーのある子どもの誤食事故を防ぐためにも、給食対応の単純化（部分除去か全解除かの二者択一の対応）を原則とする。
- B 頻度の多い食材（鶏卵・牛乳・小麦等）を給食に使用しない献立を作成するなどして事故が発生する危険性の低減化に努める。
- C 保育所では、食物アレルギーのある子どもに対して医師が記入する「保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表」に基づき適切に対応することが重要である。
- D 原因食物として、内閣府令により特定原材料として表示が義務付けられている7品目は、卵・乳・小麦・アーモンド・そば・えび・カニである。
- E アレルギー反応により、消化器症状や呼吸器症状、皮膚症状等が複数同時にそして急激に現れ、血圧が下がりぐったりする、意識がなくなるなどの生命を脅かす状態になることを、アナフィラキシーショックという。

問4 2004年（平成16年）の厚生労働省通知にある「楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～」では、食と子どもの発達の観点から、「食と健康」「食と人間関係」「食と文化」「いのちの育ちと食」「料理と食」の5項目に援助する事項がまとめられている。それぞれにあてはまるものを次の①～⑩の中から選び、数字で記入しなさい。

- ①同じ料理を食べたり、分け合って食事することを喜ぶ。
- ②身近な動植物に関心を持つ。
- ③様々な食べものを進んで食べる。
- ④身近な大人の調理を見る。
- ⑤身近な大人や友達とともに、食事をする喜びを味わう。
- ⑥地域の産物を生かした料理を味わい、郷土への親しみを持つ。
- ⑦動植物に触れ合うことで、いのちの美しさ、不思議さなどに気づく。
- ⑧好きな食べものをおいしく食べる。
- ⑨食事づくりの過程の中で、大人の援助を受けながら、自分でできることを増やす。
- ⑩食材にも旬があることを知り、季節感を感じる。

問5 次のA～Eの文章の下線部分について、正しいものには「○」を、間違っているものには「×」を正誤欄に記入し、「×」の場合は下線部分の正しい記述を記入しなさい。

- A 児童福祉法における児童は満20歳に満たない者である。
- B 児童虐待を受けたと思われる児童を発見した者は、通告しなければならない。
- C 厚生労働省では、児童虐待を、身体的虐待、性的虐待、精神的虐待、ネグレクトの4種類に分類している。
- D 保育所では、避難及び消火に対する訓練を、少なくとも年1回は行わなければならない。
- E 保育士の数は、満4歳以上の幼児おおむね20人につき1人以上とする。

問6 保育所において、2歳児の児童18名を引率して近くの公園まで散歩に行く計画を立てている。安全に散歩に行くために、当日までに、どのような準備が必要か。2歳児の担任として準備すべきことを述べなさい。

問7 火災や地震などの災害に備えて、保育所として日頃からしておかなければならないことを述べなさい。

問8 朝、登所してきた5歳児の児童の頬にあざがあり、腫れていることに担任が気付いた。送ってきた母親からは、「今日も元気です」の連絡しかなかった。このような場合、担任としてどのように対応するか。また、保育所として、どのような対応が必要と考えるか。あなたの考えを述べなさい。  
(600字程度)